

# ひとりから

真宗大谷派青少幼年センター機関紙『ひとりから』  
発行日/2014年7月1日(年4回発行)  
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター  
〒600-8168 京都市下京区室町通六条下る  
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599  
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp  
発行人/青少幼年センター長 木越 渉



## 蓮ちゃん通信 その①

### 夏休みは 東本願寺に 泊まろう!

7月末から8月下旬にかけて、「同朋ジュニア大会」や「真宗本廟子ども奉仕団」、「真宗本廟中学生・高校生奉仕団」が開催されます。是非、お誘いあわせご参加下さい♪

詳しくは、

### 子ども会情報募集中!

“お寺につどう子どもたち”の  
写真や動画など子ども会の内容  
をお寄せください。

宛先は、「郵送」または「E-mail」  
oyc@higashihonganji.or.jp  
「ひとりから」子ども会情報係 まで



## 大人の価値観が崩れるとき

青少幼年センター幹事  
松下 蓮

子ども「あ、髪の毛が変わってる」  
私「そっやねん、短くしてん。似合う?」  
子ども「変な髪型〜」  
私「えっ、そんなに变?」  
子ども「うん、変」  
なにげない近所の子どもの会話。  
大人同士なら喧嘩になるか疎遠になるか。



私たち大人は、いつの間にか  
本音と建前を使い分けることができるようになったのだらう。  
子どもは幼ければ幼いほど、私たち大人の本当の姿を言い当てる。  
(ホントは何にもわかってないんじゃない?)  
(ごめん、自分はこの色。)  
あの純粋な、曇りのない眼差しが鋭く光るとき、  
私たち大人の都合のいい価値観はガラガラと音を立てて崩れていく。  
それが本当のことであればあるほど。  
大人が子どもに教えることは何もなし。  
ただ同じ方向をむいて、一緒に手を合わせる。  
そしてただ同じ方向をむいて、共に生きていくしかない。

# 私のすがた

日豊教区  
櫻木 証

私とあなた、自分と自分以外の人はそれぞれ「自」と「他」を別して生きています。では「私」のこと、「私の本当のすがた」に、私自身は気づくことができているのでしょうか。

今から2500年ほど前、お釈迦さまのお弟子に目連という方がいました。彼にはどんなことでも可能にする不思議な力「神通力」が備わっていました。その力を使っても、餓鬼道という地獄で苦しんでいたお母さんを助け出すことができませんでした。

目連さんは、悲しみ泣きながらお釈迦さまのもとへ行き「なぜ私のお母さんは餓鬼道にいるのですか、どうしたら助けられますか」と尋ねました。するとお釈迦さまは「あなたのお母さんは優しい人です。ただ、あなたにだけ優しくした。その罪の報いで餓鬼道に落ちてしまったのです。助け出したいならば、お盆の時にたくさんの人を呼んで、おいしい食事とおいしい飲み物を出すのです」と教えてくれました。

そこで目連さんはお釈迦さまの教



えのとおり、自分の家にたくさんの人を招待し、ごちそうを振る舞いました。しかし、人々は「なぜごちそうが出てくるのだろう。お釈迦さまは贅沢をしてはいけないと常々言われている。目連さんもそのことはお分かりになっているはずなのに」と不思議がるばかりで食べようとしません。

見かねた目連さんはこれまでのことを話し始めました。亡くなったお母さんが餓鬼道に落ち、助けようと

## 子どもたちと聞く法話

したけれど助けられなかったこと。なぜお母さんは餓鬼道に落ちねばならなかったのか、どうすれば助けられるのかをお釈迦さまに尋ねたこと。お釈迦さまからは、お母さんは息子には優しくしたけれど他の人には冷たく、その報いによって餓鬼道に落ちているから、助けたいのならばたくさんの人々にごちそうを振る舞うようにと教えていただいたこと。それでこうして皆さんにごちそうを出したのだと…。

その時、彼はハッとしました。目連さんは、お釈迦さまが教えてくださったことの本当の意味によつて気がついたのです。「今、私のお母さんは私だけかわいがった報いを受けて餓鬼道に落ちたと言いましたが、私も同じことをしていました。餓鬼道にはたくさんの方が苦しんでいるのに、私はその苦しんでいる人々には何もしませんでした。いや、むしろ見向きもせず、自分の母親だけを助けようとし、母親だけに食べ物を持って行ったのです。母は亡くなり、今、餓鬼道にいますが、生きている私も餓鬼道にいる母と同じでした。」

それを聞いた一人が「目連さん、私も自分のことを振りかえれば目連さんのお母さん、そしてあなたと同じ過ちをおかしていました。しかし、

そのことに気づかず、今まで何事もなかったかのように暮らしてきました。あなたのお話を聞かなければ気づかないままでした」と礼を述べたのでした。

見えていなかった自分に気づいていくということは、簡単なことではないでしょう。しかし仏さまは、気づかないままでいる私たちに常に「気づいてほしい、目を覚ましてほしい」と呼びかけられています。その呼びかけが「南無阿弥陀仏」というお念仏です。

### 蓮ちゃん通信 その②



#### 子ども会開設の手引き 「ひとりからはじめる子ども会」(改訂版)

「私ひとりからはじめること」、「子どもひとりと出あうこと」をコンセプトに、子ども会の準備から実践までを紹介している手引書です。あなたもこの手引きをきっかけに、まずは気負わず子ども会を開いてみませんか？

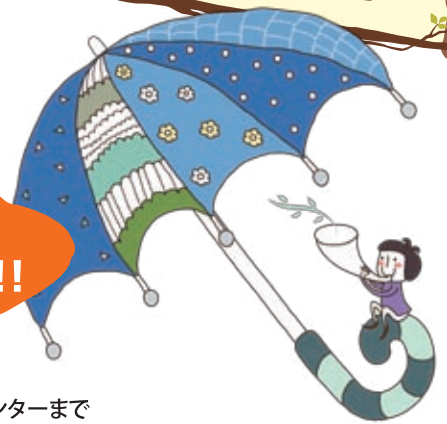
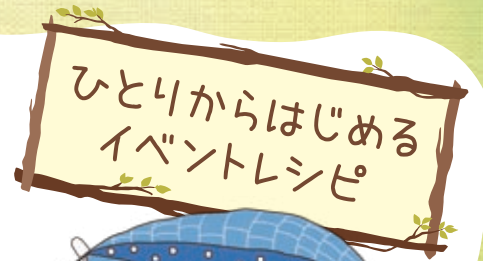
※無償で送付いたします。  
青少幼年センターまでお問合せください。



雨がふってもだいじょうぶ!

# お寺の本堂であそぼう!

—少人数でも楽しめるゲーム・プログラム—



手のひらサイズの  
ゲーム集の中から  
紹介します!



45種類の  
ゲーム掲載!!

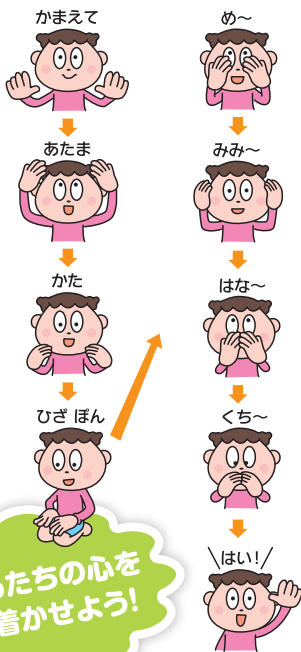
【価格】700円  
お申込は、青少年センターまで

## 1 まず

手あそびで  
集中しよう!!

たとえば…

11 あたま かた ひざポン



子どもたちの心を  
落ち着かせよう!

その他 6 指折り数えて など

注意!!

つい夢中に…!  
水分補給も忘れずに!



## 2 つぎに

新聞で  
あそぼう!!

たとえば…

40 新聞パズル 対抗

対象：低学年～ 人数：2人～  
用具：新聞紙 形態：組

### 方法

- ①2人1組になる。
- ②新聞紙を2人で1枚用意する。
- ③1人ずつ、1枚の半分を自由な形に破り、6～8枚の断片にする。
- ④バラバラになった新聞紙を交換して、元通りに組み合わせる。

※表裏がハッキリ違う新聞を使うとやさしく、似たものだと難しくなる。  
※人数が多い場合は、グループ対抗にできる。  
※他の新聞を使ったゲームの最後にするとよい。



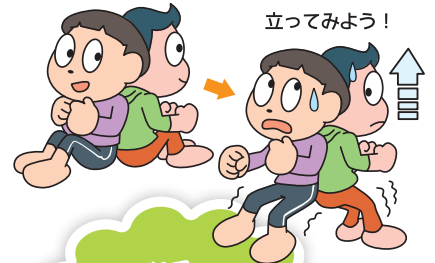
## 3 さいごに

体を使って  
あそぼう!!

たとえば…

20 背中で立ってみよう

背中をぴったりつけて



けがに  
注意して  
楽しもう!!

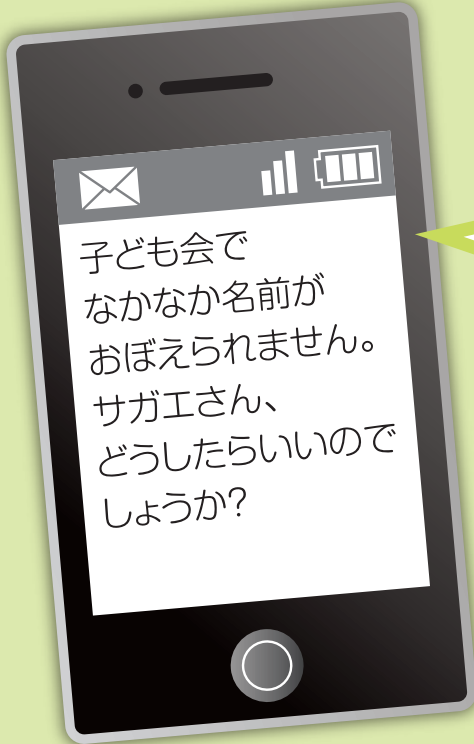
その他 19 つっぱり棒 など

### ポイント

1日のプログラムに…

- 手あそび
- かんたんな道具
- 体をつかう

などのメニューを  
組み合わせるとメリハリが  
できます!



さがえ なつみ  
**佐賀枝 夏文**

1948年生まれ。大谷大学修士課程修了。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少年センター非常勤嘱託。カウンスラーネーム「サガエさん」です。



## 名前

固有の名前には不思議な「ちから」があります。名前が呼ばれると、なにかが湧き上がってきます。呼ばれば応えようと、からだやココロが動きだします。名前というスイッチがオンに入ると「ココロ」をゆり動かす力がはたらきはじめます。名前は「あなたでなければならない」「他のひとではなくあなた」ということ、そしてふたりとない「じぶん」を意味するからです。

わたしたちのお寺の子ども会は、だれでもない「じぶん」で過ごす場所と時間が大切です。固有で個別の「じぶん」で過ごすという子ども会の「やくそく」は、固有の名前で呼びあうことからはじまります。参加者が呼んでもらいたい名前やニックネームを確認してはじめるといいです。主催者は、参加者が名前を覚える「ゲーム」を工夫してはいかががでしょう。例えば、ペアになって相手と話し合い、メンバーにペアの相手を紹介してもいいでしょう。それから、輪になって「Aさんの隣のBです…」 「Bさんの隣のCです」と順送りに自己紹介をすれば、メンバーの名前を覚える機会にもなります。

「子どもたち」という言い方に傷ついている場合があります。保育や教育が集団で組織的で「均一」に運営されるからです。保育や教育は、本来「均一」をめざしてはいないのですが、到達目標のために「個別」が大切にされないこともあります。

わたしたちお寺の子ども会は、だれでもない「じぶん」を表現できる時間と場所を大切にするとおもいます。それは、名前を呼ぶ、名号を称えることからはじまる感応道交に通じるようにもおもいます。

青少年センターではメール相談窓口を開設しております!

**子どもたちの悩みごとにはサガエさんがお返事します。**

[sagaesan@higashihonganji.or.jp](mailto:sagaesan@higashihonganji.or.jp)

(上記のアドレスから返信しますので、受信拒否設定にご注意ください)

## 蓮ちゃん通信 その③



### 池の平青少年センターは40周年を迎えました!

子ども会のお泊り行事など、豊かな自然の池の平の地に足を運んでみませんか? 様々な野外活動のプログラムと源泉かけ流しのお風呂でお待ちしております。



詳しくは、

◎創刊から一年を迎えた「ひとりかい」。  
今号から、サガエさんの新コーナーが始まりました。子ども会で「しんどいな」「もうやめようかな」と感じてしまうような悩みや困りごとも、実は「であいのキーポイント」かもしれません。それぞれの場に立つ「ひとり」を支えるコーナーになればと思います。(編集長)

◎5月に全国の児童教化を担当する代表者が一堂に会した、児童教化教区代表者協議会が「ひとりからはじめるためにー組・教区・連区・本山のつながりを確かめるー」をテーマに開催され、ひとりひとりの参加者が「我がごと」として青少年教化を語り合う貴重な時間となりました。「ひとりからはじめるために、機関紙も歩みを続けます。次号は十月一日発行予定です。ー子とならぶ風の御堂と盆の月ー(青セ主幹)

編集後記

